

70th
ANNIVERSARY

行動理念

明るく元気良く行動し、
Diversity & Inclusion (多様性と受容) で
相手を思いやる心を忘れずに、
ポジティブ (積極的) に物事を考えよう

コミュニケーションの第一歩である「挨拶」を徹底しています。元気に気持ち良く働くには、やはり元気な挨拶で始まり元気な挨拶で終わることが大事であると考えます。意思疎通や思いやりの心がなくては会社全体の雰囲気も悪くなってしまいます。そして、ポジティブシンキング (積極的思考) を常に持つことによって、肉体的・精神的・社会的な健康を保ち、現場からの改善提案も活発に行われています。



行動目標

常に考える
主体的な率先した行動

外部環境が大きく変化する現代社会を生き抜くためには、全社員がすべてのことを他人事ではなく自分事として考えなければなりません。主体的に行動することで、様々な困難を率先して乗り越えていくことができ、個人の成長=会社の成長につながると考えています。



経営理念

心豊かな食文化を創造し、
安心して安全な魅力ある商品を提供することで社会に貢献し、
共に繁栄することを目的とする

企業理念に基づき絶えずチャレンジングスピリッツを失わず、永年培った技術とノウハウを最大限に活かした“安心して安全な魅力ある商品”を作り続けています。そして社業を通じて社会に貢献し、社会が良くなることで会社もより良くなると考えています。



品質・食品安全方針

顧客に好まれる安心して安全な
魅力ある商品の提供

顧客に好まれる・支持される商品は何なのか、市場やお客様のニーズは何であるのかを常に考えながら商品開発を行い、お客様を幸せにする商品をお届けします。「品質は工程で作られる」という考えのもと、品質管理・製造が一体となり、安心して安全な商品を継続して作り続けています。



HISTORY

株式会社ヤマヲは前身であるヤマヲ食品工業有限会社、また、それより以前の個人営業の時代から今日に至るまで安心で安全な食品製造を徹底し、調理麺・調理パスタ・惣菜のパイオニアとして確かな信頼と実績を重ね、創立70年（創業82年）を迎えることができました。

時代の流れと共に安全基準や主力商品を変化させ、現在は立川市栄町にあるHACCP対応の本社工場にて調理麺・スナック麺・惣菜類などを製造し、主にコンビニエンスストアへ納品し、消費者の皆さまへ安心で安全な食をお届けしています。

変化に対応しチャレンジを続けてきたヤマヲの70年にわたる歴史を、代表取締役社長の岡部直士よりお伝えいたします。

株式会社ヤマヲ 代表取締役社長

岡部

Naohito Okabe

直士

従業員の幸せを第一に考えてー

ヤマヲは1942年（昭和17）に個人事業として発足しました。その後、戦時中に一時業務を中断しましたが、1947年（昭和22）に戦後の食糧需給改善施策の一環として政府から製麺委託工場の指定を受けて乾麺製造を再開、翌年1948年（昭和23）3月にヤマヲ食品工業有限会社として資本金30万円で再スタートを切りました。それから6年後の1954年（昭和29）7月に資本金50万円で有限会社ヤマヲを新たに設立し、父・岡部良夫が代表取締役に就任。ヤマヲ食品工業の業務を継続したことが今のヤマヲにつながっています。

会社の専務理事の立場にあり、いろいろな知識もありましたので間違っているか間違っていないか、やるかやらないかの判断を迅速に行い、必要とあらば億単位の製造機械を即日入れ替えるなどの確な設備投資を行って事業を拡大してまいりました。『こうと決めたらどうしてもやらないと気が済まない！』というように少し気の短いところもありましたが（笑）、結論を出すのが早かったことは事業を拡大する上でとても良いことだったと思います。ちなみに70歳記念でホノルルマラソンに出場するなど、とにかくストイックでアグレッシブ。そんな姿から私はいろいろなことを学びました。そんな先代が亡くなって20年が経ちますが、たまに会いたくなる



HISTORY



ことがあります。それは、今のヤマヲを見てほしいと思うからです。先代は誰よりも従業員の幸せを願い、従業員からの良い報告を例えば「家を買った」や「クルマ

経営とは時代認識 時代の流れを読み、 安心安全な食品作りに邁進

私が取締役としてヤマヲに入社したのは、1976年（昭和51）。当時の主力商品は父・岡部良夫の代から続けていた袋麺で、主な取引先はスーパーマーケットや百貨店でした。売上は2〜3億ほどで、ありがたいことに年々売上は伸びていましたが、資本の固定化が高く資本回転が低い装置産業となっていたため、そこから業界として生き残るには、さらなる事業拡大が必要だと考えました。その頃の日本では百貨店やスーパーマーケットよりも徐々にコンビニエンスストアが増えてきた背景もあり、そこに目を付けた私は「これからはお弁当（調理麺）の時代だ」と強く思ったのです。

リーマート1925店舗、約40アイテムを製造し、現在では売上を今期見込みですが70億円まで伸ばすことができました。会社がこうして70年間成り立っているのは、安心安全な食品を作り続けてきたこと、企業理念に基づき絶えずチャレンジングスピリッツを失わず、長年培った技術とノウハウを最大限に引き出して商品開発をしてきたこと、それらの食を通して人々のお役に立っているからだと思っています。これからは安心安全で魅力ある商品を提供することで、従業員が一人丸となって社会貢献をしていきたいと考えております。

多くの方が痛感している通り、新型コロナウイルスは人々の価値観を大きく変え、仕事や生活様式

を買った」という話を誰よりも楽しみにしていましたから、今のヤマヲでも私を含めた従業員はみんな幸せである、という状況を見てほしいという思いからです。

て行う必要がありました。そして、日々変化するニーズに応えるため、クライアントからの細かい発注に適宜対応することができれば、大手企業が入り込めないところで事業拡大ができると考えました。私は全国20社ほどさまざまな工場を視察して調理麺に対応できる設備と方法を見つけ、先代や周りの人々たちを説得して1998年（平成10）に新工場を立ち上げました。私が専務取締役になって5年目、ヤマヲ食品工業有限公司として発足以来50年目の節目のことです。

時代は過りますが、新工場を建てるまでも紆余曲折さまざまなお話がありました。私の「ヤマヲ人生」の中で大変だったことのひとつとして強く記憶しているのが、1980年（昭和55）に起きた過酸化水素の社会問題です。過酸

SDGsと多文化共生

社会貢献への具体的な取り組みとしては、17あるSDGsの項目を従業員がひとつずつ研究して資料を作り、「自分として、会社として、17の目標にどう取り組むべきか？」といった発表を朝礼時に行っていました。また、衛生講習会や新人フォローアップ研修、ステップアップ研修など外部研修参加による質の高い教育を構築したり、2019年（令和元）に女性社員の有志によりスタートした「Women Smile Project」を継続したこと

で、2021年（令和3）5月に会社として大きな目標であった女性活躍推進法における優良企業「えるぼし認定」を星3つで受けることができました。こちらは現在も活動メンバーを増員し、精力的に活動を行っています。また、2024年（令和6）には健康経営の認証もいただきました。こうした基盤的な取り組みは世界が掲げるSDGsへのアプローチであると同時に従業員満足の上

化水素は1948年（昭和23）に添加物として指定され、麺類製造上では防菌剤（静菌剤）として茹麺に浸漬して商品化していましたが、1980年1月12日に厚生労働省から「過酸化水素に弱い発がん性が認められた」と発表されたのです。新聞でも大きく一面で報道されたことで取引先からの返品が相次ぎ、売上は当然ながら激減しました。それから添加物を使わないよう商品を改良しましたが、大量にストックされていた包材には既に添加物名が印字されていたので、新包材ができるまでそれらを一つひとつ消して販売を止めた。個人的には二週間後に結婚式を控えており時間に追われていた時期でした。しかしそんなことは関係ありません。多くの従業員に助けられ、この大変な局面をどうにか乗り越えることがで

から専務取締役の栄一を中心にボトムアップ型の社内改革に取り組み、法的な整備は当然のことながら、女性が活躍できる環境改善や

が見直されました。また、どの業界も人材不足で良い人材が集まらない・続かない時代になっていきました。しかしヤマヲではコロナ以前

につながっています。そして何よりヤマヲは外国人従業員がとて多い会社です。2017年度（平成29）から2023年度（令和5）までの7年間の間に技能実習生の受け入れは7回。今では8カ国の国籍、約300名以上の外国人従業員が日々協力し合いながら安心安全な食品製造に取り組んでいます。ヤマヲでは外国人技能実習制度の目標に則り、無事故無違反を前提に制度を利用し、2019年度（令和元）には外国人技能実習制度における「優良な実習実施者」の基準を満たすことができました。多くの外国人従業員がいる中で、最近ヤマヲではベトナムからの特定技能実習者が増えています。そうした中で、より優秀な人材をどう集めて確保していくのか。現在は、在留資格「特定技能ビザ」に関して登録支援機関の認証を受け、「特定技能ビザ」にて就労を希望する外国人の人材サポートを行っています。具体的に

上/上棟式の様子
下/工場建設中の様子



きました。その結果、袋麺に特化していたら装置産業に負けしてしまうと業態変化を考え始めていたところもあり、行きついたところに調理麺製造がありました。

1998年（平成10）に完成した新工場は、敷地面積約1000坪、延べ床面積約1124坪の鉄骨造3階建て。かかった費用は20億円。1991年度（平成3）から取引が始まったコンビニエンスストア「ファミリーマート」様の事業拡大を見据えての投資でしたが、当時の売上は13〜15億円ほどでしたのでスタート時はとても苦勞をいたしました。袋麺だけを作っていた頃と違って調理麺にはスープがあり、トッピングもさまざま。原材料をすべて一から仕入れて、製麺ラインでうどん、そば、中華麺、パスタなど異なる麺を製造し、野菜や具材を食材下処理・加工ラ

健康的に仕事をしてもらうための環境整備、社員教育に力を入れたことだけでなく皆さんの優秀な従業員が働いてくれています。

は、現地へ直接足を運んで面接し、現地の送り出し機関で勉強してもらった後に来日。日本での1カ月の研修の後、6カ月間自社で受け入れて製造の中核を任せています。また、ヤマヲでの勤務が始まってからも、週に3回ほど元キャンピングアテンダントによる日本語学校を開き、一般会話や日本語能力試験対策、コミュニケーションを円滑に行うための日本語教育を行っています。それだけに留まらず、日本の文化やマナー、衛生的価値観なども各自が楽しみながら学んでいます。これらの取り組みは、労働時間の間だけではなくプライベートの生活の中で困ることを減らし、日本での暮らしが良くなることで、結果的に働くことに対して意欲的になります。こうした手厚いサポートにより、外国人従業員が自ら家族・親戚・友人などにヤマヲの良さを広めてくれ、次の人材確保につながることであります。これから製造現場での日本人労

近隣から見た現在の工場全景



働者はどんどん減っていくと思えます。SDGsにおける17の目標を意識して業務に取り込むことは、日々お世話になっている地域貢献になり、また、地域社会・国際社会の一員としての役割を従業員全員が理解することは、一人ひとりが働き甲斐を感じることもつながります。ヤマヲはこれからSDGsに取り組み、一つひとつ真摯に向き合っています。

PROFILE

岡部 直士

おかべ なおひと
1952年(昭和27)9月20日生まれ

職歴

- 1976年(昭和51) 株式会社ヤマヲ 入社
株式会社だいた製麺 出向
- 1977年(昭和28) 株式会社ヤマヲ 取締役 就任
- 1993年(平成5) 株式会社ヤマヲ 専務取締役 就任
- 2001年(平成13) 株式会社ヤマヲ 副社長 就任
- 2004年(平成16) 株式会社ヤマヲ 代表取締役社長 就任

学歴

- 1965年(昭和40) 立川市立第二小学校 卒業
- 1968年(昭和43) 立川市立第二中学校 卒業
- 1971年(昭和46) 東京都立武蔵高等学校 卒業
- 1976年(昭和51) 立教大学 経済学部経営学科 卒業(現在:経営学部)

各種団体役職

- 立川商工会議所 監事
- 東京都立川食品衛生協会 会長
(立川市、国立市、国分寺市、昭島市、武蔵村山市、東大和市)
- 一般社団法人東京都食品衛生協会 副会長
- 東京食品福祉厚生事業団 副理事長
- 立川市租税教育推進協議会 座長
- シーハイルアカデミーたちかわ 会長(No.690スキークラブ団体長)
- 東京立川ロータリークラブ 会員
- 立川警察懇話会 監事
- 立川優良申告法人会 副会長

青年会議所(JCI)経歴

- 1989年(平成元) (社団法人)立川青年会議所 理事長
- 1991年(平成3) (社団法人)日本青年会議所 関東地区
東京ブロック協議会 会長
- 1992年(平成4) (社団法人)日本青年会議所 関東地区協議会 会長
日本青年会議所 常任理事

過去の各種団体役職

- 2008~2018年 立川市サッカー協会 会長
- 2019~2023年 一般財団法人 東京都スキー連盟 会長
- 2020~2022年 公益財団法人 全日本スキー連盟 副会長
- 2009~2010年 東京立川ロータリークラブ 第50代会長
- 2018~2020年 日本JC関東地区シニア・クラブ会長

スキー関連資格

- 公益財団法人 全日本スキー連盟 正指導員 検定員



元アルペンスキーヤー湯浅直樹氏



アルペンスキーヤー若月隼太選手と



1991年東京ブロック会長時に行われたアカデミー研修委員会



東京都食品衛生協会での挨拶



自宅会議室で開催した職業奉仕委員会 最終炉辺会合

社会貢献として アスリート応援に力を入れる

私は2008年(平成20)から2018年(平成30)までの間、立川市サッカー協会の会長を務め、ヤマヲとして東京ヴェルディの応援を始めました。これはサッカー協会会長であったことも大きく関係していますが、東京ヴェルディはスポーツを通じて日本を元気にするチームであり、ヤマヲは食を通じて日本を幸せにしている会社です。こうした双方の思いが一緒になれば、強力な社会貢献につながると思われました。他にも「フットサルの街府中」を代表する強豪として実績を残し、

2009年(平成21)よりFリーグ(日本フットサルリーグ)に加盟して2022-2023シーズンよりホームタウンを立川に移転した立川アスレティックFCにも応援しています。また、スキー関連では冬季オリンピックに3度出場してアグレッシブな滑りで絶大な人気を誇り、40歳となる2022年(令和4)までアルペンスキー界のトップを走り続けた湯浅直樹氏や、苗場スキー場のレストランで偶然会ったことが縁となったワールドカップに出場しているアルペンスキーヤーの若月

隼太選手を応援しています。何故そんなにアスリート応援に力を入れるのか?と問われたこともあり、東京ヴェルディに関しては前述した理由に加え、スポーツをはじめ文化芸術をご支援させていただくことで「会社は社会の公器」であるという考えを行動に移すことだと考えているからです。また、立川アスレティックFCは同じ地元立川企業としての応援が、より良い街作りにつながると考えています。また、そのような応援活動によって多くの方と知り合いになりました。猪谷千春氏(1956年冬季オリンピック「コルチナ・ダッペンツォ五輪/イタリア」アルペンスキーで銀メダルを獲得。ご夫妻や、元スキージャンプ選手の原因雅彦氏も大切な方々です。

70周年節目の年 未来を見据えたバトンタッチ

この度のヤマヲ70周年を機に私は代表取締役社長から会長になり、息子・栄一が代表取締役社長に就任いたします。今はヤマヲの3本柱である製造・総務・営業(開発)それぞれに、きちんと管理できる人間が育っているのも不安はありません。しかし、この基盤を作るには、試行錯誤の積み重ねが必要でした。新しい人材が入るたびに得手不得手を見極め、部署を増やして調整し、会議を増やしてコミュニケーションを取り、発言の仕方を指摘して勉強するように指導し、褒めることで自信を持ってもらう。私が先代の思い「従業員の幸せを第一」という気持ちを受け



上/猪谷千春氏と奥さまと
下/元スキージャンプ選手の原因雅彦氏



株式会社ヤマヲ70周年沿革

立川市と共に発展してきた弊社の70年間

参考資料/写真でみる 立川の街づくり—あゆみと今—、立川商工会議所 五十年史 写真提供/立川歴史民俗資料館



乾麺製造時の工場

9月20日
岡部 直士 誕生

1944年度(昭和19)～1948年(昭和22) 2月
戦時中は物資の統制と企業整備により一時休業
軍都立川は終戦までに少なくとも13回の空襲を受けた



創業当初の岡部 良夫

最初の社屋兼工場

5月31日
・資本金を
100万円に増資

7月31日
・「有限会社ヤマヲ」を
資本金50万円で設立
組織変更及び商号変更を行い、
ヤマヲ食品有限会社の業務を継続
・岡部 良夫が代表取締役に就任
・岡部 喜久枝が取締役に就任
(出資者:岡部 良夫、
岡部 喜久枝、岡部 良三、
堀内 サダ、堀内 幸弘)

3月
・「ヤマヲ食品有限会社」を
資本金19万5,000 円で設立
・岡部 良三が代表取締役に就任
・岡部 良夫が専務取締役に就任

9月
・戦後の食糧受給改善施策の一環として、
政府の製麺委託工場の指定を受け、
乾麺製造を再開

・戦後に岡部 良夫が
「ヤマヲ岡部商店」に入社

・岡部 良三が
乾麺の製造販売を目的として
商号を「ヤマヲ岡部商店」と称し、
個人経営として発足

1967 (昭和42) 1965 (昭和40) 1964 (昭和39) 1963 (昭和38) 1962 (昭和37) 1956 (昭和31) 1955 (昭和30) 1954 (昭和29) 1953 (昭和28) 1952 (昭和27) 1948 (昭和23) 1947 (昭和22) 1946 (昭和21) 1945 (昭和20) 1944 (昭和19) 1943 (昭和18) 1942 (昭和17)

※決算月(6月～翌5月)に合わせて記載しています。

6月21日
立川駅西踏切りの地下道完成
署名活動が展開
基地跡地の三分割有償反対

10月10日
立川駅構内で無人タンク車が暴走、
火災事故発生
10月10日
東京オリンピック開幕
聖火が立川市内を走る

5月1日
立川市と砂川町が合併
10月10日
立川駅東踏切りの地下道完成

4月28日
伊勢丹立川店が拡張開店
5月4日
砂川町で立川基地拡張反対闘争
「砂川闘争」が始まる

12月10日
吉田内閣解散
立川駅北口銀座商店街
(東京杯の大アーケード) 完成

サンフランシスコ平和条約が締結され
連合国軍の占領が終了

忠犬ハチ公銅像の再建
日本国憲法が施行され国民主権・
基本的人権の尊重・平和主義の
三原則が確立

9月2日
太平洋戦争終戦
9月3日
立川飛行場に米軍が進駐
日本国憲法が公布され
天皇の権限が制約される

立川税務署開設
立川消防署発足

国内外の主な動き
昭和15年12月1日
立川町が市制を施行し立川市になる
昭和16年12月8日
太平洋戦争開戦
立川警察署開設





1982年に開業した「うどん処ヤマ」の店舗パース



曙町の本社工場と第2工場



●第32期 売上5億4,562万円
・モランボンとの取引を開始し、全店舗の冷麺を供給する

●第31期 売上4億8,521万円

●第30期 売上5億2,760万円
・(株)立川高島屋店舗移転のため一時取引中断

●第29期 売上4億2,571万円
・「うどん処ヤマ」をWILL(現ルミネ立川店)に出店
・東京都民生協の共同購入部門への参加

●第28期 売上3億7,839万円
・岡部 良夫が税務大学に租税資料を提供し御礼状を授与
・都民生協(48店舗)との取引開始
・coop商品の納入開始

●第27期 売上3億6,096万円
・引き続き麺類製造上の添加物、防腐剤であった過酸化水素が社会問題になり保存剤(プロピレン・グリコール=GPGP)の規制強化へ向かう

11月10日
岡部 栄一 誕生

●第26期 売上3億4,723万円
・麺類製造上の添加物・防腐剤であった過酸化水素が社会問題として取引先からの返品が相次ぐ

税務大学校長からの御礼状



●第25期 売上3億8,325万円

●第24期 売上3億3,308万円
・岡部 喜久枝が経理部門を、岡部 直士が営業部門を掌管
・資本金を1,000万円に増資
・新社屋完成
・事務部門と生産部門の合理化を図り、麺類の品種別一貫生産体制を確立(株)立川高島屋の売り場什器を投資して売り場の拡大を図る

●第23期 売上2億6,113万円
・岡部 直士が(株)ヤマへ取締役として入社
・岡部 直士が(株)だい久製麺へ出向(1年間勤務)

●第22期 売上1億7,811万円
・資本金を400万円に増資

●第21期 売上1億2,707万円
・「株式会社ヤマ」に組織変更
従業員への持ち株制に変更し、長年勤務した従業員に優先して配分
・資本金を200万円に増資

・乾麺主体の製造を中止し、生麺・茹で麺主体の製造にシフト



1977年(昭和52)新社屋完成記念祝賀会

4月1日
岡部 直士 入社

1985 (昭和60) 1984 (昭和59) 1983 (昭和58) 1982 (昭和57) 1981 (昭和56) 1980 (昭和55) 1979 (昭和54) 1978 (昭和53) 1977 (昭和52) 1976 (昭和51) 1975 (昭和50) 1974 (昭和49) 1973 (昭和48) 1972 (昭和47) 1969 (昭和42) 1968 (昭和41)

5月15日 西武拝島線「玉川上水駅」から「拝島駅」が開通

12月27日 自衛隊が立川基地へ移駐 沖縄がアメリカ統治から日本に返還され 本土復帰が実現

第1次オイルショックが起こる

長嶋茂雄が巨人を引退

日本電信電話公社が プッシュ式公衆電話機を発売

ロッキート事件
ピンク・レディーがデビュー

7月11日 東武ストア開店

11月30日 米軍立川基地が日本政府に 全面返還される

大蔵省、国土庁が 「立川飛行場返還国有地の処理の大綱」を発表

第二次オイルショックが起こる
11月30日 「国営昭和記念公園」の設置が 閣議決定される

イラン・イラク戦争開戦

1月17日 陸上自衛隊飛行基地の 本格的工事が始まる

3月1日 新滑走路(新立川飛行場)の運用開始 立川駅に最も近い基地跡地の 再開業事業が始まる

9月29日 立川駅の南北自由道路が開通

10月2日 立川ターミナルビル「WILL」開業 初日は延べ25万人が入場

10月26日 「国営昭和記念公園」が開園 初日は1万8000人が入園

12月12日 西武拝島線「武蔵砂川駅」開業

1月9日 日経平均株価が 初めて1万円の大台を突破

11月2日 日本中央競馬会の 立川場外馬券売り場が立川駅南で 窓口業務開始 初日の利用客は9434人



- 第47期 売上17億7,331万円
- ・(株)エーエム・ピーエム・ジャパンとの取引終了
- ・資本金を20,000,000円に増資
- ・日本製粉(株)(現在:(株)ニッポン)が10,000株を取得
- ・ISO9002を認証取得



上/約2年間使用したレンタル事務所
下/新工場地鎮祭

- 第46期 売上17億8,000万円
- ・東京都民生活協同組合
コープとうきょうとの取引終了

- 第45期 売上13億898万円
- ・HACCP採用の新工場を立川市栄町4-3-3に建設
製造能力を確保
- ・(株)エーエム・ピーエム・ジャパンとの取引開始
- ・(株)スリーエフとの取引開始



出来上がった新工場と先代の岡部良夫

- 第44期 売上12億1,530万円
- ・事務所が手狭になったため近隣のビルに事務所をレンタル
- ・新工場建設のための工場用地を武蔵米穀卸(株)より購入し、建物撤去を同時に行う
- ・岡部 喜久枝が常務取締役役に就任

- 第43期 売上13億6,968万円

- 第42期 売上10億86,402万円

- 第41期 売上11億2,216万円
- ・大学生協東京事業連合との取引終了

- 第40期 売上8億6,152万円
- ・(株)稲毛屋との取引終了
- ・西野商事(株)の帳合が外れ、(株)ファミリーマートと直接取引開始
- ・岡部 直士が専務取締役に就任



曙町の事務所



手書きの決算書



曙町の第2工場での慰労会

- 第39期 売上6億2,301万円
- ・決算書が手書きからタイプライターへ

- 第38期 売上4億3,605万円
- ・西野商事(株)(ファミリーマートの帳合先)との取引開始
- ・工場を増改築製造ライン増設により1時間あたり調理麺5,000食の製造を実現

- 第37期 売上4億4,038万円
- ・東京都民生活協同組合
コープとうきょうに名称変更

- 第36期 売上4億3,712万円

- 第35期 売上4億3,550万円

- 第34期 売上4億7,432万円
- ・(株)ヨシケイ東京との取引開始

- 第33期 売上5億2,324万円
- ・大学生協東京事業連合との取引開始
- ・(株)高島屋立川支店との取引再開

2000 (平成12) 1999 (平成11) 1998 (平成10) 1997 (平成9) 1996 (平成8) 1995 (平成7) 1994 (平成6) 1993 (平成5) 1992 (平成4) 1991 (平成3) 1990 (平成2) 1989 (平成1) 1988 (昭和63) 1987 (昭和62) 1986 (昭和61)

1月10日
多摩モノレール「多摩センター駅」から「立川北駅」開通



4月18日
立川駅南口に「グランデュオ・サザン」が開業

11月27日
多摩モノレール「立川北駅」から「上北台駅」が開通

11月24日
山一証券が経営破綻の末に倒産



4月1日
Yahoo! JAPANがサービスを開始
広島原爆ドームが世界遺産に登録



1月17日
阪神・淡路大震災が発生

ファールレ立川のまちびらき

2月7日
能登半島沖地震が発生
Jリーグ開幕

(株)立川ターミナルビルが(株)ルミネに吸収合併され「WILL」から「ルミネ立川店」へ名称変更

バブル崩壊



12月1日
立川市制施行50周年記念式典開催

昭和天皇崩御、平成に改元



3月13日
青函トンネル開通

ブラックマンデーが起こる
(ニューヨーク株式市場の大暴落)



男女雇用均等法施行

食品衛生工場の模範として授与した表彰状



●第54期 売上20億5,373万円
・東京都食品衛生協会より食品衛生優良施設表彰状を授与

●第53期 売上15億3,620万円
・シマダヤ(株)との取引終了
・ルミネ立川「うどん処ヤマヲ」を閉店
・レンジアップ焼きそば、焼きうどんの製造開始
・岡部 栄一が常務取締役として入社
・(株)九九プラス、(株)バリューローソンと取引開始

●第52期 売上22億1,059万円
・ISO9001の継続認証
・ISO22000を日本の食品業界で初めて認証取得
・生バスタレンジアップ製品製造の開始
・厚生労働大臣より食品衛生工場の模範として表彰状を授与

●第51期 売上 21億4,973万円
・平成16年7月26日
代表取締役会長の岡部 良夫が永眠

●第50期 売上21億0,224万円
・岡部 直士が代表取締役社長に就任
・岡部 良夫が代表取締役会長に就任
・ISO9001/HACCPを認証取得

●第49期 売上 20億5,108万円
・(株)ファミリーマートの商品供給がアイテム別からエリア別に変更

●第48期 売上15億9,028万円
・岡部 直士が副社長に就任
・岡部 喜久枝が常務取締役から取締役に就任
・(株)スリーエフとの取引終了
・シマダヤ(株)との取引開始

4月1日
岡部 栄一 入社



上/配送センターに納品するトラック
下/ファミリーマートに並んでいる商品

●第61期 売上40億1,299万円
・(株)ファミリーマート東村山センターの調理麺、
スナック麺アイテムを他社より弊社へ移管
・CVS事業に特化するため製造集約し、一般関係と学校給食との取引終了

●第60期 売上32億4,858万円
・(株)九九プラス製造体制が弊社1社体制から2社体制に
・厚生労働大臣より優良食品衛生工場として表彰状を授与
・(株)ローソンマートが設立
・(株)ローソンマートが(株)九九プラスの店舗運営・商品開発を引き継ぐ

●第59期 売上34億5,865万円
・(株)ファミリーマート東村山センターの製造応援

●第58期 売上33億5,594万円
・(株)九九プラスにて東日本大震災で被災した他社仙台工場の応援で
東北に商品供給を開始
・(株)ファミリーマート東村山センターの製造応援
・ショップ99全店舗がローソンストア100になる
・FSSC22000を認証取得
・(株)エーエム・ピーエム・ジャパンが(株)ファミリーマートに経営統合

●第57期 売上30億4,407万円
・多文化共生企業への取り組みを開始
・(株)ファミリーマート甲府センターの製造応援

●第56期 売上23億4,885万円
・(株)バリューローソンが(株)九九プラスに吸収合併
・(株)九九プラスが盛夏期の製造を弊社1社体制に
・(株)エーエム・ピーエム・ジャパンが
(株)ファミリーマートの完全子会社に
・製造集約により(株)高島屋立川店との取引終了

●第55期 売上22億4,738万円
・ショップ99(ローソンストア100)の
関東製造工場が弊社1社体制に
・資本金を30,000,000円に増資
・(株)菱食と(株)バリューローソンとの
直接引開始

2014 (平成26) 2013 (平成25) 2012 (平成24) 2011 (平成23) 2010 (平成22) 2009 (平成21) 2008 (平成20) 2007 (平成19) 2006 (平成18) 2005 (平成17) 2004 (平成16) 2003 (平成15) 2002 (平成14) 2001 (平成13)

御嶽山噴火
7年ぶりの円安・株高

アベノミクス始動

原子力発電所の稼働が一時ゼロに

東日本大震災が発生
原子力発電所の停止が相次ぎ
電力不足が深刻化する
歴史的円高で一時1ドル75円32銭に

尖閣諸島沖で中国漁船衝突
記録的な猛暑で熱中症による
死者が多発

裁判員制度施行

福田首相が辞任、麻生内閣発足
中国製餃子で中毒、
殺虫剤メタミドホス検出
岩手・宮城内陸地震が発生

安倍首相突然の辞任、福田内閣発足
各地で食品偽装発覚
日本列島74年ぶりの猛暑

安倍政権発足

国際原油相場が高騰

新潟県中越地震が発生

自衛隊のイラク派遣が決定

新型肺炎SARSが流行

1月12日
立川駅北口駅前
ペDESTリアンデッキ開通



PROFILE

先代社長

岡部 良夫

おかべ よしお
1925年(大正14)2月23日生まれ



会社役職

1945年(昭和20) ヤマロ岡部商店 入社
1948年(昭和23) 有限会社ヤマロ 専務取締役 就任
1954年(昭和29) 有限会社ヤマロ 代表取締役 就任
1974年(昭和49) 株式会社ヤマロ 代表取締役 就任

学歴

1937年(昭和12) 立川第一尋常小学校 卒業
(現在:立川市立第二小学校)
1944年(昭和19) 旧制高等工業学校(高工7年制) 卒業
1948年(昭和23) 武蔵工業大学 卒業
(現在:東京都市大学)

過去の各種団体役職

- ・全国生めん類公取協 常任理事
- ・全国めん類衛生技術センター 常任理事
- ・冷凍麺協議会 理事 ・社団法人 日本蕎麦協会 常任理事
- ・全国生鮮加工食品流通協議会 理事
- ・東京立川ロータリークラブ 会長
- ・三多摩製麺協同組合 初代理事長(6期21年間)

全国製麺協同組合連合会 経歴

1972年(昭和47) 理事
1984年(昭和59) 常任理事
1989年(平成元) 専務理事
1992年(平成4) 副会長兼専務理事
1993年(平成5) 副会長
1996年(平成8) 理事
1998年(平成10) 相談役

ロータリークラブ 経歴

1969年(昭和44)6月30日
東京立川ロータリークラブ 入会
1980年(昭和55)7月~1981年(昭和56)6月
東京立川ロータリークラブ 会長
1981年(昭和56)7月~1982年(昭和57)6月
2750地区 E分区代理
1985年(昭和60)7月~1986年(昭和61)6月
2750地区 拡大委員長



尋常小学校時代の岡部 良夫
(前列右から3人目)



海外旅行にて妻 喜久枝と



健康優良企業「銀」取得



2021年いなるの製造開始



経済産業省の健康経営
優良法人認定



立川市ワーク・ライフ・
バランス推進事業所認定



東京都「心のバリアフリー」
サポート企業に登録

- 第70期 売上70億円目標
- ・立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定
- ・経済産業省の健康経営優良法人認定

- 第69期 売上67億7,984千円
- ・サステナビリティ推進部を設置し
社内改革を加速させる
- ・ロシア・ウクライナ戦争により
電力供給会社が倒産し供給会社変更へ
- ・令和4年5月10日
取締役の岡部 喜久枝が永眠



- 第68期 売上62億3,476千円
- ・健康優良企業「銀」取得
- ・東京都「心のバリアフリー」
サポート企業に登録
- ・炊飯ラインの製造開始
(ざるそばいなり定食)

- 第67期 売上58億2,805万円
- ・(株)ファミリーマートが伊藤忠商事(株)の100%子会社に
- ・岡部 直士が東京都知事より保健衛生向上への貢献における表彰状を授与
- ・東京都立川食品衛生協会より食品衛生への維持向上と食品衛生意識の普及啓蒙への貢献において表彰状を授与
- ・女性活躍推進法における厚生労働省の優良企業「えるぼし認定」取得

- 第66期 売上55億2,459万円
- ・JFS-Cを認証返上しISO22000とFSSC22000に集約
- ・ユニー・ファミリーマートHD(株)が社名変更し、(株)ファミリーマートになる
- ・岡部 直士が東京都知事より食品衛生行政への貢献において表彰状を授与
- ・登録支援機関認定を取得し、特定技能生の採用を開始

- 第65期 売上57億3,802万円
- ・サークルKとサンクスの全店舗が営業終了し、
ファミリーマートに切り替わる

- 第64期 売上55億0,388万円
- ・(株)ファミリーマート甲府センターが他社へ移管
- ・(株)ファミリーマート港北センターが弊社へ移管
- ・伊藤製パン(株)との取引開始(焼きそばパンの原種を供給)
- ・ISO9001を認証返上しISO22000に集約
- ・JFS-C規格を認証取得
- ・技能実習生の採用を開始

- 第63期 売上51億6,737万円
- ・(株)ファミリーマート東村山センターと、他社横浜鶴見センターの移管
- ・ユニーグループ・ホールディングス(株)と
(株)ファミリーマートが吸収合併し、
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)に社名変更
- ・(株)ファミリーマート日野センター開設
- ・サークルKサンクスとファミリーマートの商品統合で11センターへ納品開始
- ・SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを開始

- 第62期 売上41億4,961万円
- ・(株)ファミリーマート向けに
豆腐(惣菜)アイテムの製造開始
- ・(株)ローソンマートとの取引終了
- ・岡部 栄一が専務取締役に就任
- ・(株)ファミリーマートがレンジ麺販売の促進を図る

2004年厚生労働省より
「えるぼし認定」取得



2023
(令和5)

記録的猛暑、夏の平均気温過去最高
消費税のインボイス制度開始
LGBT法成立

2022
(令和4)

知床観光船の沈没事故発生
円安1ドル150円突破

2021
(令和3)

東京オリンピック・
パラリンピック開幕

2020
(令和2)

菅首相による新内閣発足
1月15日
日本国内で新型コロナウイルスの
感染者が確認される

2019
(令和1)

天皇陛下が即位、令和に改元
消費税10%開始
沖縄の首里城が焼失

2018
(平成30)

西日本豪雨、北海道地震など
災害が相次ぐ
働き方改革関連法が成立

2017
(平成29)

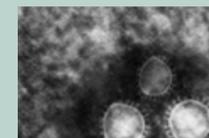
九州北部豪雨が発生

2016
(平成28)

4月14日
熊本地震が発生

2015
(平成27)

安全保障関連法が成立
世界各地でイスラム過激派の
テロが発生



岡部

Eiichi Okabe

栄一

株式会社ヤマヲ専務取締役



17年前の2007年（平成19）4月に常務取締役として入社し、9年に亘り専務取締役を務めた岡部栄一が、この度、株式会社ヤマヲ70周年の節目に代表取締役に就任いたします。

高度経済成長期から経済・政治・文化・メディア・DX・IoT・AIなど、あらゆる分野で同時多発的に変化する激動の時代に、先代の岡部良夫と代表取締役である岡部直士が働く姿を見て育ち、多くの人と出会い、様々な経験を重ね、ヤマヲと共に成長してまいりました。

人生100年時代、激変する生活様式と労働環境、多くの社会課題や日々変化する社会情勢。常に先を見据えてより良いヤマヲにするために行ってきた改革と、これからのヤマヲについて岡部栄一が語ります。

FUTURE

変革に迫られる前に自らが変わる Change before you have to

私は、学生時代はずっとサツカーに打ち込んでいたこともあり、大学で経営学を学び初めて家業を意識するようになりました。そして、いざ家業に戻ると考え、お金の流れや経営者視点から学ぶために祖父の勧めもあり、大学卒業後は多摩信用金庫で4年間お世話になりました。そして、4年後にヤママへ戻って17年の月日が経ちましたが、思い返すと変化の連続であったと実感しています。70周年の節目の機会に代替わりするにあたり、ヤママの70年という歴史の上に多くの人に支えられて立たせてもらっているのだなと感じます。

ヤママは長い歴史の中で常に変化を遂げてきた会社です。戦争が終わって食が貧しい時代に政府から小麦を支給され、それを加工して売るといふ社会課題を解決するために生まれた事業で、乾麺からスタートした製麺はやがて袋麺になり、今の主力商品・チルド麺へと変化しました。コンビニエンスストアと取引させていただけるということは、地方の過疎化や食料品店の減少、公共交通機関の廃止などにより気軽に食料品や日用品

を調達できない買い物難民の方たちへの課題解決にもなります。このように社会から求められているものは何かを追求し社会課題を解決するために、時代背景や社会的背景と共に商品形態を変化させてきたのがヤママです。これからの時代は更に不確実性が高く、DX、IoTやAIの進化により劇的に変化の早い時代になります。

高度経済成長から30年以上が経ち、世の中が変化するスピードはこれからも加速していくことでしょう。また、国際情勢も日々激しく変わり不安定な状況が続いています。日本では今後超高齢化社会となり、人口減少が世界で最も早く起きていきます。そうした時代における食品製造業としての課題は、量と共に質が求められることとどう対応するか。また、DXが急速に進化している時代だからこそ、社会性と経済性の両輪をしっかりと回していけるのが重要です。変革に迫られる前に自らが変化することで進化していくことがこれからの10年の課題です。私が常務取締役としてヤママに入社した当時、従業員の平均年齢

は58歳でした。とても古い体質で指示を待つ人や言われたことしか仕事をしない人がとても多くいた印象でした。まずは、トップダウンからボトムアップ型に変えていこうと思ひ、さまざまな改革を行いました。これにおいては当時社長だった父の考えと違う部分や、これからの時代を考えると変えなければと思う部分もあり、いろいろと意見を出し合い、時には言い合いました。この時が私とヤママの関わりの中で、一番大変な時期でした。しかし、前職では従業員の誰もがスキルアップできる環境が整い、チームで働くことで大変なことも楽しいことも分かち合ってお互いを高め合っていたため、ヤママもそんな会社になることで必ず成長できると考えたのです。当時のヤママは技術者に徹して管理者にならない人が多くいました。製造だけを正確に長時間行うというのも製造業においてはとても重要な仕事ではありますが、特に役職が高い人はそれだけをやっているのは部下が育ちません。しかし、そのスタイルで30年、40年勤めているという人が多かったので私の考えを1対1で丁寧に話してもらっていきないうちに半数以上の社員が辞めていきました。しかし、新しい人材が入ってきた時には私

り方を変え、コミュニケーションの機会を増やしていきなうな従業員からは「どうしてそのようなことをするのか」「それが本当に会社のためになるのか」という懐疑的な意見が出たこともありました。変化することは大変なことですが、人間の心理で変化を嫌がるの

「社業を通じて」「地域に根差し」「国を想い」「世界を変える」「意識を持ち続ける企業へ」

こうして9年在籍した青年会議所を2020年(令和2)に卒業し、これからは青年会議所を通じて世界中で繋がった人脈をフル活用して社会と会社に還元していくことを考えました。青年会議所で一番の学びになったのは、会社は利益を生まなければいけないのと同時に、社会課題を解決していかなければ生き残っていけないということ。青年会議所に入っていないならば「地域に根差し」「国を想い」「世界を変える」という高い視座には至らず、自社の利益だけを考えたこともありません。今は有難いことに様々な団体で役職に就かせていただいているので、そうした立場を活かすことも地域と社会に貢献できる実感を感じています。そして、社業を通じて生まれ育った地域に雇用を生

み、微力ながら国の社会課題を解決し、世界という広いフィールドでチャレンジしていきたいと考えています。国内ではコンビニエンスストアの仕事を通じて「食のインフラ」「命のインフラ」企業として貢献できると思います。有事の際、例えば東日本大震災の時には仙台にある工場まで商品を運ばせていただき、他社工場が稼働できず製造ができなくなった代わりに他社商品を製造する対応などを行いました。通常のヤママの製造に加えて他社商品を製造するのは現場の人間も管理する部署も大変でしたが、こうして出来るひとつの商品が社会とどう繋がっているのかを従業員に伝えていくことが大切だと、気付かされた出来事でもありました。現在ヤママは

年間約2200万食の商品を製造しています。日本の人口は約1億2000万人なので単純計算ですが6人に1人は食べている計算です。1日にすると盛夏期の製造数は約12万食。工場から近い国立市の人口が約8万人ですから、それ以上の商品を毎日出荷しているのです。工場のラインに従事している従業員はそのようなことは意識してこなかったかもしれないが、それだけの食を社会に届ける仕事をしているということ誇りに思っているという言葉を従業員に伝えるようになりました。

今までは時代背景に添って仕事をしていた部分が多くあります。それはそのまま変わらず添っていき姿勢を持ち続け、さらにこれからは要求を先読みして時代を

自身が面接をし、直接ヤママの改革ビジョンを伝えてきたことで、今は意見を自発的に言える従業員が増え、平均年齢は39歳と若返りを図ることができました。

改革を行うまでは規則も部署も整っておらず、私が夜間や製造ラインが止まる時間帯にメンテナンスをすることもありましたが、労働災害が発生した際に従業員から訴えられたこともありましたが、しかし、その時の大変さがあったからこそ大きく変わることができ、今があると思っています。改革の足掛かりとして、まずは新しい部署を立ち上げました。製造計画を立てて客観的に見ることで

作る側を目指していきたいと思ひます。具体的な話で言うと、食文化は多様化し複雑化しています。人々の生活習慣や食事の摂り方が変化し、大家族が核家族化したことで便利なコンビニエンスストアが生まれ、今も発展を続けています。さらに今後も少子高齢化の中で核家族化が進むと同時に人口は減っていきなう。これは食を必要とする胃袋が減っていくということ。安心して安全な魅力ある商品を開発しながら、その事実に応じて先駆けて対応していくべきかを、引き続き取引先の皆様と一緒に取り組んでいきます。

また、フードロスや製造ロスの問題にも取り組む、長期間保存を可能にする冷凍分野や新しい食べ方についても挑戦していきたいと思ひます。例えば、現在では電子レンジで温めて食べるチルド麺ではゼラチンやレンジアップして調理しますが、ゼラチンを使わず液体スチープだけで作れないか？添加物を削減しながら長期保存を可能にできないか？など、コンビニエンスストアの商品開発は最先端でより美味しいものをより鮮度良くという高いレベルの要望があります。商品開発が非常に難しいですが、とてもやりがいを持って従業員と共に取り組んでいます。また、環境の観点で言うと社会問題であるプラスチック削減に関する包材への取り組みも重要です。海洋に出て溶けてなくなるバイオマス容器の起用(弊社使用46%)やCO2削減につながる無着色の容器などについても、数値化しながら引き続き取り組んでいきます。



上/製麺室にて工場長と打ち合わせ
下/2018年JCI世界会議インドゴア、JCI日本役員



PROFILE

岡部 栄一

おかべ えいいち
1980年(昭和55)11月10日生まれ

職歴

2003年(平成15) 多摩信用金庫 入庫
2007年(平成19) 株式会社ヤマヲ 常務取締役として入社
2015年(平成27) 株式会社ヤマヲ 専務取締役 就任

学歴

1993年(平成5) 立川市立 第二小学校 卒業
1996年(平成8) 日本大学 第二中学校 卒業
1999年(平成11) 日本大学 第二高等学校 卒業
2003年(平成15) 日本大学 商学部 経営学科 卒業

各種団体役職

- ・公益社団法人日本青年会議所 監事
- ・日本JC シニア・クラブ 常務世話人
- ・立川市サッカー協会 副会長
- ・一般社団法人SDGs プラットフォーム 理事
- ・一般社団法人SDGs マネジメント 執行役員
- ・一般社団法人 三多摩サッカー連盟 理事
- ・特定非営利法人 KIF JAPAN 常任理事
- ・立川商工会議所 環境国際会議実行委員会 委員
- ・一般社団法人 JAPAN Carbon Neutral Association 監事
- ・東京立川ロータリークラブ 会員
- ・明治安田生命保険相互会社 立川支社総代兼全国総代

青年会議所(JCI) 経歴

※(公社)立川青年会議所(JCI立川)、(公社)日本青年会議所(JCI日本)

- 2012年度(平成24) JCI立川 入会 地域協働推進委員会 委員
- 2013年度(平成25) JCI立川 50周年事業準備特別委員会 幹事
JCI日本 総務グループJC 運動発信会議 総括幹事
- 2014年度(平成26) JCI立川 総務広報委員会 委員長
JCI日本 関東地区 東京ブロック協議会
東京ブロック大会運営委員会 委員
- 2015年度(平成27) JCI立川 きずな繋ぐ育成委員会 委員長
JCI日本 LOM 支援グループ 拡大委員会 委員
- 2016年度(平成28) JCI立川 副理事長
JCI日本 総務グループ 共感デザイン構築会議 議長
- 2017年度(平成29) JCI立川 第53代 理事長
- 2018年度(平成30) JCI立川 顧問
JCI日本 国際グループ担当 副会頭
- 2019年度(令和元) JCI立川 顧問
JCI日本 顧問
- 2020年度(令和2) JCI立川 顧問
JCI日本 専務理事 同年卒業
- 2021年度(令和3) JCI日本 監事
- 2023年度(令和5) 2021年より引き続き、現在に至る



2017年立川青年会議所理事長として



2018年JCI ASPAC 鹿児島大会



2020年JAPAN FORUMにて菅首相と



外国人技能実習生をベトナムで面接

「多文化共生企業」のロールモデルに

ヤマヲは外国人従業員比率が75%を超える多文化共生企業です。彼らがヤマヲや日本で学んだ技術を持って母国へ帰ることで、その国の技術向上と発展に貢献したい。それと同時に母国に戻った際には麺や総菜の製造技術を習得しているの、彼らを通じて世界に日本の食文化を発信したいという思いがあります。しかしその反面、国際貢献・技術の移転のための最長5年滞在の技能実習制度は、これから日本国内の人材確保と人材育成を目的とした育成就労制度になります。育成就労制度に国際貢献という概念はなくなりますが、必ず母国に帰る方がいますので国際貢献には繋がるとも思っています。私はヤマヲに、日本の食

に貢献してくれた方々の母国に恩返しできる会社でありたいのです。日本語学校を弊社で開設して日本語能力の向上に向けて取り組みを進めています。人材育成というのは日本へ来てからの教育ももちろん大切ですが、現地で早くから取り組めないかと計画しています。現在、弊社のノウハウを活かした衛生管理教育が現地できないかと、現地パートナー企業と合弁会社設立に向けて動いています。今、ヤマヲで働く技能実習生は6カ月前に現地で面接をして半年間かけて日本語を勉強し、日本へ来てから1カ月の研修を経て3年間就労していますが、現地では衛生管理教育がされていないので

日本の衛生価値観に慣れるまでにとても時間がかかります。そのため、私は現地で教育は日本語の勉強だけではなく衛生管理教育も同時にできないかと考えました。そうすることでヤマヲのみならず、日本や世界にも貢献できるのではないかと。日本が世界に先駆

「自分の子どもを働かせたいと思える」「従業員幸福度が高い企業」でありたい

私は、DE&I(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)——人種・性別・年齢・宗教・価値観・性格・嗜好など個々の違いを受け入れ、認め合い活かすことで従業員幸福度の高い多文化共生企業を目指していきたいと考えています。

そして、これまで改革を進めてきたように、これからはSDGsに紐づく多文化共生、健康経営、女性活躍、カーボンニュートラルなどの取り組みを継続し、「Work in Life」「人生の自己実現のための仕事」であるという考えを持ち、従業員幸福度が高い企業でありたいのです。昨今話題のChatGPTなどAIの活用も必要不可欠ではあ

りませんが、すべてのシステムで急激な改革を行うのは難しいため、情報を取捨選択すると同時に社員にも同じようなリカレント教育ができる環境を整備し、自己実現と会社の成長のための省人化と効率化にチャレンジしていきます。

社会情勢や国際情勢が目まぐるしく変化する中、変える部分はほとんどん変えるべきであり、そもそも自分の成功事例が本当に正しいか、疑いの目を自分に向けていることが大切だと考えています。そうしなければすぐに淘汰されてしまう時代だからです。今後も多方面にアンテナを張り、従業員の意見に耳を傾けながら取り入れ、日本の企業の働き方を含めて世界に食文化を広めていくインフラ企業にな

り、いずれ日本と世界で仕事をすめるロールモデルになれるよう、常に緊張感を持ってヤマヲを牽引していきます。

これからの10年、20年先も地域から必要とされ、日本、世界に貢献できる企業に進化できるように、従業員一同邁進してまいります。70年に亘り弊社を支えていただいているすべての皆様との「一期一会」の出会いに感謝申し上げます。今後とも引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



技能実習生の入社式



そば
石臼挽きそば粉を使用した喉越しの良い香り高いそば。カツオの本枯れ節や宗田カツオ節、サバ節など出汁にこだわったつゆとよく合います。夏はとろろ芋をのせた冷やしとろろそば、冬はひとつずつ手作業で揚げる海老天そばや海老かき揚げそばなどが人気です。



コラボ商品
麵屋こころ監修の台湾風ませそばや、東京千里眼監修の濃厚マシマシラーメンなど数々の人気店監修の商品も製造しています。リンガーハット監修の長崎うどんや甲賀流監修のたこ焼きなど、調理麺に限らず多くの人気店とコラボレーションしています。



ラーメン
低温熟成が生む喉越しの良いつゆと弾力を併せ持つ中華麺です。味噌ラーメンは赤味噌と白味噌をブレンドし、香味野菜オイルを加えたコクのあるスープにじっくり煮込んで直火焼きした豚バラチャーシューを盛り付けています。



うどん
モチモチとしたコシと粘りのあるうどんは、ジュシーな揚げをのせたきつねうどんや5種類の具材が彩り豊かなけんちんうどんなどを展開しています。瀬戸内産煮干しを中心にうるめ・カツオ節・昆布を合わせた出汁にこだわったつゆを使用しています。



そうめん
伝統ある素麺のトップブランドである「揖保乃糸」を使用した商品です。夏はカツオ・昆布・椎茸の旨み合わせたつゆが付いた冷し手延素麺揖保乃糸、冬は卵とじあんかけや柚子が香る出汁のあったかそうめんなどを製造しています。

調理麺

生パスタ

三層構造のモチモチ平打ち生パスタです。卵、チーズ、ニンニクをバランス良く合わせたコクのあるソースに二段焼しベーコン・パルメザンチーズ・ブラックペッパーをトッピングしたカルボナーラや、シチュー風味のソースをたっぷりかけたサーモンとほうれん草などを展開しています。



たこ焼き
カツオと香味野菜の出汁をきかせて焼き上げました。外は香ばしく、中はとろーりとした食感が特徴です。普通サイズと大盛りをお選びいただけます。



豆腐
豆腐を半丁使用したカレーチーズ豆腐は温めることで2種類のチーズがカレーに溶け出し、トロットとした味わいを楽しめます。夏は蒸し鶏と刻みネギをのせた冷やっこなど「おつまみ」を意識した商品も製造しています。

そば、うどん、ラーメン、パスタ... 調理麺から惣菜まで幅広いラインナップ

株式会社ヤママは創業の1942年(昭和17)より現在に至るまで麺類一筋の製造を行い、さまざまなノウハウを蓄積してまいりました。安心安全でお客さまに好まれる魅力ある商品を提供するべく日々研究開発を行なっております。そば、うどん、ラーメンなどの調理麺をはじめ、パスタや焼きそばなどのスナック麺や総菜類、袋麺・生麺・蒸し麺など多種多様な麺類の製造が可能です。これからお客さまのニーズに合わせた安心安全な商品をお届けしてまいります。※ここで紹介する商品は、販売終了したものや限定商品などが含まれています。

スナック麺



ビーフ
調味液をしっかりとビーフンに含ませる製法によって専門店に近い味を再現しました。五目焼きビーフンは豚ひき肉と野菜炒め、炒り卵をトッピング。高菜明太焼ビーフンは明太ソース、青ネギ、高菜を直前に絡めることでトッピング具材と麺の一体感をお楽しみいただけます。



グラタン
トマトの酸味や唐辛子の辛み、ニンニクの香りをきかせたアラビアータをグラタンに仕立てました。こんがり焼いたチーズが美味しさのポイントです。

惣菜



ラグナ
生パスタのモチモチ食感にトロットとしたホワイトソース、トマトソース、ポロネーゼソースがまるやかに絡み合ったラグナです。ソースのクリーム感をアップし、生パスタの厚みを変更することで、よりパスタとソースの一体感のあるラグナに仕立てました。



焼きそば
豚肉やキャベツと共にスパイスを加えて炒めることで香ばしく仕上げたソース焼きそばです。豚肉と野菜を炒めたトッピングとの一体感ある美味しさで特徴で、ボリュームを求める方からは豚カルビの塩焼きそばや痺れる辛さがクセになる麻婆焼きそばが好評です。



このたびは株式会社ヤマヲ創立70周年を迎えられたこと、心よりお喜び申し上げます。

貴社は戦前から乾麺の製造販売を目的として創業され、1954年に「有限会社ヤマヲ」として創立以来、製麺を中心に食品事業の多角化に積極的に取り組まれ弛まぬ発展を遂げてこられました。それもひとえに皆様方が、安心して安全な魅力ある商品の提供により社会に貢献するという経営理念を長きに亘り真摯に実践された賜物と心より敬意を表します。

消費者の皆様からの信頼にお応えする絶対的に不可欠な食品の安全性と品質の維持向上に何よりも熱心に取り組まれた結果、2017年には日本の食品業界で初のISO22000の認証も取得される快挙も成し遂げられました。加えまして、時代を先取りされ早くからサステナブルな社会の実現に向けての取り組みを推進され、女性活躍推進やダイバーシティの領域で行政からも高い評価を得ておられる事にも、パートナーを大事にされる経営哲学が発露されたものと拝察いたします。

貴社70周年を節目として、弊社と貴社との30年に亘るパートナーシップで築いた信頼関係を更に深め、将来の更なる成長を共に目指して参る事をお願い致したいと存じます。

末筆ではございますが、貴社の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

株式会社ファミリーマート代表取締役社長

細見研介様



70th
Anniversary
YAMAWO

CONGRATULATIONS

日頃より株式会社ヤマヲを支えてくださる皆様より、お祝いのお言葉を頂戴いたしました。

お心づくしの祝辞を賜り、より一層、社会のために安心安全な食品製造を徹底し、今まで以上に愛されるヤマヲとして邁進してまいります。

創立70周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

一言で70年と申し上げておりますが、時代は昭和から平成、令和と大きく移り行く中で、長年に渡りさまざまな種類の麺を提供するほか最近ではお惣菜を手掛けるなど、貴社の取組と持続的発展は、歴代社長をはじめ社員の皆さま、関係者の皆さまのご努力の賜物であり改めて敬意を表します。

貴社の主力商品である麺は、今や日本の国民食の一つとなっております。貴社が立川を拠点とし、事業を通じて日本の食文化を支えていただいていることに感謝の念に堪えません。

更には、貴社の事業所としての取組に対し、令和5年度に「立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所」の認定をさせていただきました。多文化共生や健康経営への取組、女性活躍を推進するなど、多様な人材が活躍している事業所であり、誰もが働きやすい職場づくりに向け取組を進める貴社に改めて感謝申し上げます。

今後も、安全・安心な日本の食文化を支え続けていただくことを、麺をこよなく愛す消費者の一人としてご期待申し上げます。

最後に、貴社の益々のご発展と社員・関係者の皆さまのご健勝を祈念し、私の挨拶といたします。

第23代立川市長

酒井 大史様



70th Anniversary
YAMAWO

株式会社ヤマワ様が1954年7月に創立以来、多事多難な時代を乗り越えられ、70周年を迎えられましたことに対して心からお祝い申し上げます。

1954年7月に「有限会社ヤマワ」として設立され、西東京地区の製麺業として操業を開始されました。当社はそれ以来のお付き合いで、ヤマワ様の発展と共に成長させていただきました。岡部直士社長は、中食製造業としていち早くHACCP対応の工場（現本社工場）を1998年に立川市栄町に落成されました。安心安全な魅力ある商品を提供することを求められるコンビニエンスストアへの調理麺等の製造販売で、日本の中食事業の振興発展に多大な貢献をされてこられました。

現在、食品製造業は人手不足や原材料のコスト上昇等、様々な課題に直面しており、今後も人件費や物流費のアップ等大きな環境変化も予想されます。社長ならびに従業員の皆様が一致団結して、これら諸課題や環境変化に対応されながら、安心して安全な魅力ある商品の供給を継続されることにより、次の80周年、100周年に向けて社業がさらに発展されることと確信しております。

結びになりますが、貴社のご隆盛ならびに従業員皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

株式会社ニッポン 代表取締役社長

前鶴 俊哉様



70th Anniversary
YAMAWO

創立70周年にあたり、謹んでお祝いを申し上げます。70年の長きにわたり、社会環境の変化に対応しながら輝かしい発展を続けてこられた企業としての高い理念とご努力に衷心より敬意を表します。

申し上げるまでもなく、貴社がこれまで積み重ねてこられたご功績は幾多にも及びますが、私は「人」「社会」に対し多大なるご貢献をされてこられたことに深く感銘を受けております。企業としての利益とは別に、地域活動やスポーツを通じた人材育成、明るい豊かな社会づくりのため岡部社長を先頭に立川市を拠点にご活躍くださっていることは私たちの誇りです。

私は、岡部栄一専務と30代のころから地域活動を通して共に汗を流してきました。その視点は常に世界に向けられ、社会の発展と人々の幸せのため崇高な理想と強いリーダーシップを発揮して取り組まれる姿は、仲間としていつも尊敬していました。

ポジティブな発想のもと、多様性と受容の心で、これからも社会へ大きなインパクトをもたらして下さることを願いますとともに、地域の誇りである株式会社ヤマワ様の益々のご盛業、社員様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

東京都議会議員

伊藤 大輔 様



70th Anniversary
YAMAWO

株式会社ヤマワ様の創業70周年、誠におめでとうございます。昭和17年から麺類一筋に製造を続けられた御社が、岡部直士社長のもと、「石臼挽きそば粉のざるそば」から「冷やしすだちおろしうどん」「生パスタクリームボロネーゼ」、更には「梅と蒸し鶏のとろーり豆腐」などの総菜、おつまみなど私たちの暮らしに手頃な値段で非現実の夢を味わえる商品の提供をしていただくかけがえのない企業になりました。

変化していく社会環境に先駆けて適応され、技能実習生の採用、女性活躍推進法における優良企業「えるぼし認定」を取得、従業員さんの健康を重視し、「健康優良企業ステップ1・銀」認定など、新しい我が国の働き方を模索され実践されている姿勢にも改めて敬意を表する次第です。

直士、栄一の父子鷹がこれからも御社と事業を通じたSDGsの達成と幸福の伝播を続けていただける様、働いて参ることをお約束してお祝いのご挨拶とさせていただきます。

衆議院議員

小田原 潔 様

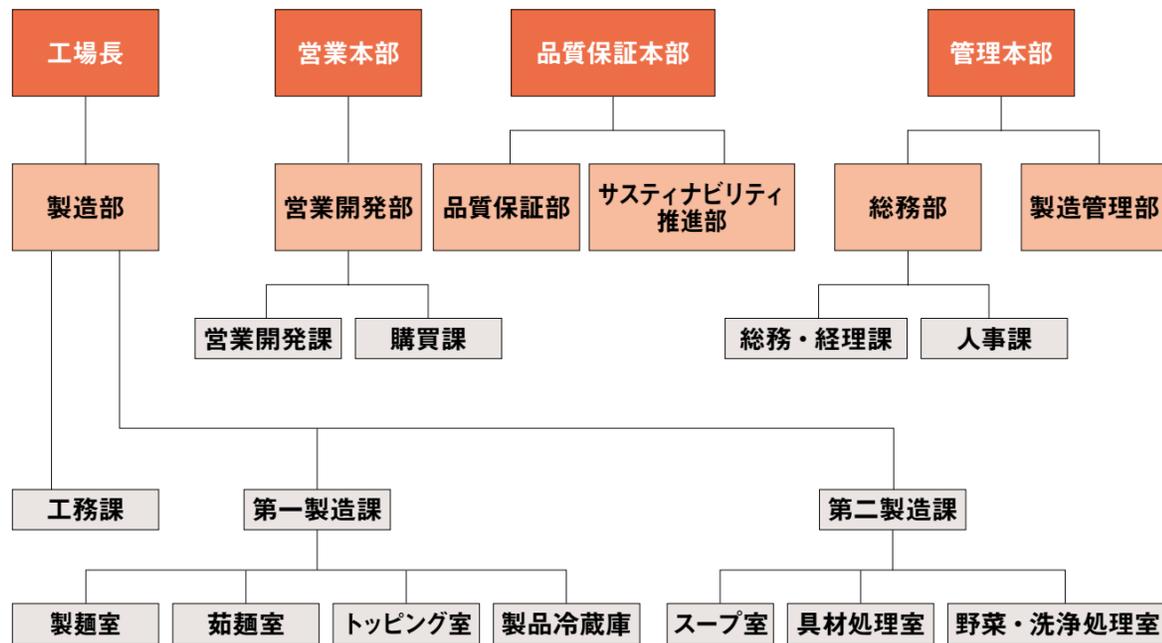


70th Anniversary
YAMAWO

事業内容

事業内容	複合型そうざい製造業
工場所在地	〒190-0003 東京都立川市栄町 4-3-3
工場敷地面積	2,414.25㎡ (730.31 坪)
駐車場面積	528.00㎡ (160.00 坪)
延べ床面積	3,721.69㎡ (1,124.38 坪)
構造	鉄筋造 3 階建て (一部ミキサーステージあり)
受水層	36.80ton
ボイラー設備	2ton × 2 基
粉サイロ	20ton × 1 基
冷水発生装置	12ton × 2 基 (ダムレイド) + 冷水発生装置 3 基
荷物エレベーター	990kg × 2 基

組織図



BUSINESS INFORMATION

食品業界のトップリーダーとして
 お客さまへ「安心で安全な魅力ある商品」を提供し続けております。
 安全安心な食品製造を実現するためには
 魅力ある商品を企画するには
 会社の重要な役割を担う従業員が
 各部署での動きや課題、これからのヤマヲについて語ります。



製造部



稲野辺

Manabu Inanobe

学

製造部 工場長

工場全体の運営が円滑に進むように
全体管理する

各部署における目標設定の進捗管理、人材育成、安全衛生確保などの管理を行うのが私の仕事です。目標設定はクレーム発生率を下げることで、ゴミを減らしエネルギーを削減することなど多岐にわたります。現場に入った際には調理行程が正しく行われているかを重点的にチェックし、工場内には巻き込まれたら重症を負うような機械もあるため、人の命を預かっている職場として注意喚起をして防災が起らない環境作りを徹底しています。現在、副工場長が2人いますので彼らとコミュニケーションを密に取り、問題点や課題点を抽出して解決していくようにしています。以前はこのような役割がなかったため、随分と働きやすくなりました。

かかり、止まっていた時間があっても注文数は変わらなかったのに間に合わせることも大変でした。従業員一同が困らないためにも、このような想定外の際のガイドラインも作っていかなくてはいけないと思いました。ヤママの工場は首都圏に荷物を運びやすい東京都にあります。この利点を生かして今後、都心を意識した商品を作り、食を通して地域貢献をしていきたいと考えています。冷凍餃子や乳製品の集団食中毒事件などが起こってから、お客さまや世間による食品の見方は厳しくなりました。ヤママも同じ食品製造会社として働く中で法令順守は当たり前、今はSNSなどで拡散されてしまう時代なので、さらにその先を見据えた取り組みとして監視カメラの増設や機械の入れ替えは毎年行っています。コストはかかりますが省人化・省力化になり製造効率と衛生水準も上がるので、SDGsの観点からもこれからやっていたいかなければいけないことだと思っています。今日の前にある現場管理を行いながら、先の現場も良くなるようにしていくのが私の務めです。

松岡 俊光

Toshibimitsu Matsuoka

製造部 副工場長

育てた人材に
より長く働いてもらえるように

私の仕事は工場内・会社内のルールがきちんと守られているか、安全安全に良品が作られているかを書類・作業観察で確認し、各時間帯の社員としっかり情報共有をして業務が円滑に進むようにしています。ヤママの従業員は約7割が外国人で日本語が分からない方もいるため通訳などを介して伝えていますが、それだけでは不十分だと感じることがあります。最近では掲示物を日本語・ベトナム語・ネパール語の3カ国語表記で分かりやすく掲示するようにしたことで、トラブルも少

なくなってきました。このように外国人従業員に対するケアも、責任ある立場には求められることのひとつです。ヤママでは日本語教室を開いて日本語を勉強しています。最近では特定技能2号の取得を目指しています。上限のない滞在と家族を呼ぶことができるビザなので、育てた人材をヤママに残すことができます。今いる外国人従業員は真面目に働いている方ばかりなので、継続して衛生教育をすることでより良い戦力になってくれると思っています。



私は深夜帯の製造から出荷までルール通り作業できているか、遅れはないかなどを一括管理しています。ファミリーマートの商品を作る会社は全国に75社ありますがトッピングにズレはないか、事故はないか、常に良品作りに気を配って最優秀工場を目指しています。昨今の課題はコスト削減・人件費削減です。夜間に比べると昼間の人件費が安いので、まとめて昼に製造したり、ガス・電気代を削減できる効率の良いやり方を模索しています。麺類は夏12万食、冬5万食とかなりの差があり

ますが、冬の商品はトッピングが多くなるため、この点においても作業効率が求められます。私が入社した26年前はイラン、中国、フィリピンが多かった外国人従業員ですが、今はベトナム、ミャンマー、ネパールからの方が多くなりました。中には注意をしても何が悪いのか理解できない方もいるため、今は基礎的なところから新人教育に力を入れています。効率良く良品製造するためにも仕事を早く覚えてもらうための仕組み作りを引き続き行っていきたいと思っています。

清水 賢二

Kenji Shimizu

製造部 副工場長

効率の良い製造計画とコスト削減を目指して





スープ室

出汁の味を活かすシンプルなスープから小さな固形物を含むスープまであらゆる麺のスープを製造しています。

第二製造課

具材処理室

各商品の具材を炒めたり茹でたりするほか、蒸し焼きそば、茹でスパゲッティーなどを加熱処理します。



野菜洗浄・処理室

新鮮な野菜を一つひとつ人の手と目でチェックをしながら洗浄し、用途に応じたカットをします。



製麺室

サイロより圧送された原料をミキシングし、うどん、そば、中華麺、生パスタなどを製造しています。温度・湿度を加味して練り上げ、自動化されたラインにて生麺が出来上がります。



茹麺室

切り出した生麺を茹で上げ、2℃の冷水処理をしてコシのある麺に仕上げます。



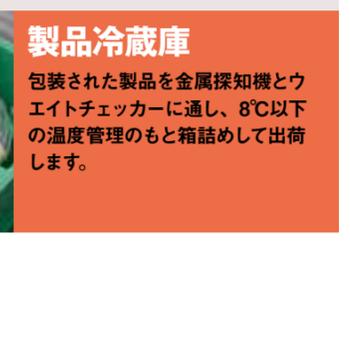
トッピング室

20mのトッピングラインにて、手作業で多くのスープや具材を盛り付け、蓋かけまで行います。



製品冷蔵庫

包装された製品を金属探知機とウイトチェッカーに通し、8℃以下の温度管理のもと箱詰めして出荷します。



第一製造課

製造部

管理本部



高野

Kunihiko Takano

邦彦

管理本部 本部長

社員教育に力を入れることで
社会的に成長したい

管理本部には総務・経理・人事に関する総務部と、営業開発部が作ったレシピを指示書に変え、製造計画を立てる製造管理部があります。管理規定に沿った上でどうすれば効率良く作れるか。より利益を生むにはどうすれば良いか。人事課と連携しながら、どのくらいの人数をかけてどれくらいの数量を作るかを考える、いわば「縁の下の力持ち」です。時には予定よりも製造が遅れてしまうことがあります。納品は時間厳守です。それをどう対処するかを考えることも私の仕事です。

工場が正常に稼働するには、ある程度的人数―当社の場合500名ほど―が必要で、日本人労働者が減っている今、外国の方には受け皿の環境を用意する必要があると考え、2019年（令和元）に特定技能生を受け入れる体制を整えました。そして2019年（令和元）6月に岡部専務と共にベトナムで面接し、半年後に最初の9人が入社しました。その後も何人か入社が決まっていたのですが、コロナの影響で日本へ来られなくなり、同時に帰国する方もいて、人員が少なくなっ

てしまった時は本当に大変でした。しかし、入社した方が友人知人にヤマヲを紹介し、紹介された人がさらに紹介をしてくれたおかげでコロナ禍にも関わらず外国人従業員を200名まで増やすことができました。これもひとえに製造現場の社員たちが一生懸命やってくれているからです。

私は外国人従業員たちを自分の子どものように思っています。何か問題を起こしたら母国にいる本当の親御さんたちに顔向けができません。寮を巡回してトラブルがないか？困っていることはないか？彼らには1・約束を守る、2・ルールを守る、3・嘘をつかないことを徹底させ、常に目を配っています。そして外国人従業員に関わらず、社員を育てることを大切にしています。中小企業は目の前の業務に追われ、社員教育に注力できる人間は少ないですが、従業員それぞれが提案力・読解力・行動力を身につけることで人間的にも社会的にも成長ができると思っています。正直者が損をしない会社にするために率先して社員教育を行っていきたくて考えています。



田中 健二

Kenji Tanaka

管理本部 製造管理部 部長

安心安全な食品製造が
効率的にできるよう管理

製造管理部は大きく分けて包材準備、食材準備、製造管理課、委託配送を統括する部署です。営業開発部からの企画、例えばファミリーマーチ様の商品は全国どこの工場でも作れるレシピになっていますが、それを効率良く出荷する間に合わせるためのスケジューリング管理を行っています。実は製造現場は比較的新しい部署で、それまでは製造現場が自分たちのやりたいようにやりやすい方法で製造していました。しかしファミリーマーチ様と取引する中で、細かい製造管理規定に沿った形で効率よく製造するためには客観的な管理が必要となったのです。

例えば、この具材は出荷の何時間前からしか調理できない、調理種は何時間前から製造できるなど製造可能時間が異なるため全体を把握して計画を立て、トラブルがあった場合は製造管理本部から指示を出し、製造部を先導しています。

日々、いろいろな要求をお客さまからいただきますが工場のキャパシティが限られているため、新たに何かを追加することが難しいという現状があります。しかし創意工夫でやりくりしてきた際にはとてもやりがいを感じます。また、ヤマヲよりも大きな食品会社を辞めてこちらに

入社した当初、スポーツ応援などで思っていた以上の広告費を使っていたので、コンビニの商品を作っていたら売上が立つのになぜだろうと疑問に思ったことがあります。しかし、経営陣との距離感が近いからこそ彼らの思いが伝わり、それらの取り組みが大手にはできない地域貢献だと気付いたことも、ヤマヲでの働き甲斐に繋がっています。

製造管理部は人が少ない部署なので従業員それぞれが自発的に動くことが求められます。また、今後は荷受けから出荷まで工場内の工程を一元管理できるシステムを導入して本格稼働させていくことも課題のひとつです。非常にコストがかかりやすいので簡単にはいきませんが、時間あたりの生産数や食品ロスなども見える化できるので、製造部にフィードバックをしながら効率良く、安心安全な商品を製造できる環境を整えるためには必要なことだと考え、取り組んでいきたいと思っています。



な事情はお客さまには関係がなく、手に取っていただける商品を開発するのが我々の役目です。しかし全国で同じ商品を販売しても高価格帯のものは東京23区と地方では売れ行きが異なります。そのため価格帯を松竹梅3つに分け、さらに地域限定商品をプラスオンで用意し、商品ラインナップを増やして設計することで、全国各地のニーズに応えるようにしています。

年々食のトレンドは変わり、それぞれの味覚の好みも多様化しています。その中で長く広く売れる商品を開発することは容易ではありません。競合他社も次々と魅力的な商品をリリースしています。競合他社の新商品が発売される毎週火曜水曜は、社内で食べ比べをするなどリサーチは欠かせません。また、営業開発課は取り引きのあるメーカー様と市場調査や展示会へ参加することでトレンドを収集し、少しでも多くのお客様に手に取っていただける商品を開発していけるよう日々努力しています。



営業
開発部



遠藤

Takayuki Endo

隆行

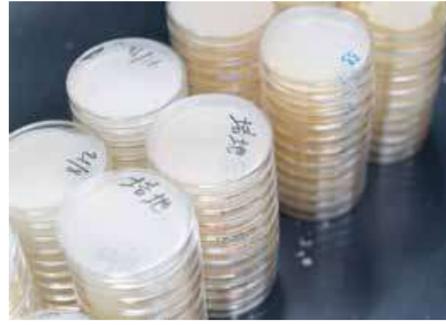
部長

全国で売ることを考え
ラインナップを豊富に用意する

営業本部は専務取締役直下の部署で、営業開発部、品質保証部、サステイナビリティ推進部があり、私が部長を務める営業開発部はさらに営業開発課と材料の仕入れを行う購買課があります。全国約1万6000店舗で販売をするファミリーマート様の商品を提案し、1年間でパッケージ変更やリニューアルも含めて280種類ほどの商品を企画するのが営業開発課です。現在は4人の社員がメインで開発業務を行っています。企画が通るとファミリーマート様へ提案し、フィードバックをもらい、試作・提案を繰り返して、約3カ月かけてひとつの商品ができあがります。

営業開発課はテレビやSNSで話題になっていることをはじめ、常にアンテナを張って新しいものにチャレンジをしないといけないといけません。昨今原材料の高騰が影響を思っている商品が開発できなかったり、価格と商品の仕立てが見合うものが作れなかったり、鳥インフルエンザの影響で卵が一切使えなかったり、競争の影響でそば粉の輸入がストップしてしまったり：苦戦する場面が多くありますが、そのよう





品質保証部



椎根

Takabiro Shiine

孝弘

部長

安心安全な商品を届けるために
厳しく管理する

品質保証部の業務は多岐にわたりますが、一言で言えば安心安全な商品を提供するための部署です。出来上がった商品の細菌検査、工場内の微生物制御と衛生管理、それを実現するための工場内のルールづくりや工場内を巡回して衛生管理指導も行います。衛生管理は年々ルールが厳しくなり、クライアントからの要求事項も増加しています。そのため、他社や他工場的事例を参考にルールや管理方法を変えるなどの調整も常に行っています。もともと人数が少ない部署でしたが、このように年々厳しくなる要求に対応するために、2022年（令和4）には第一製造課（トッピング室）の現場から人員を増やしました。中にはベトナム人の社員もいるため、現場に掲示している注意喚起の掲示物をベトナム語表記にして分かりやすくなり、衛生観念教育などを母国語でできる強みもあります。

品質保証部は工場全体を把握し、全部署に協力してもらわないと円滑な仕事ができません。そのため工場内を巡回する時には従業員に話しかけてコミュニケーションを図ったり、各部署から集められた人員で結成したHACCPチームで情報交換することで細かい指示をそれぞれの部署に伝えるようにしています。どれだけ厳しく管理しても食品製造においては製造や加工の工程にハザード（危害）が潜みます。フローダイアグラム（製造工程表）を作り一つひとつ危険分析することでリスクを把握し、安心安全な商品を出しているように、これからも引き続き気を引き締めて業務にあたりたいと思います。



SDGs 目標

経営理念である「心豊かな食文化を創造し、安心で安全な魅力ある商品を提供する事で社会に貢献し、共に繁栄する事を目的とする」を基に、安心安全な商品・健康な商品作りによりSDGsに取り組んでいます。ヤマヲの持続可能な開発目標（SDGs）は主に次の8つです。

Goal 2 飢餓をゼロに

Goal 12 つくる責任 つかう責任



社内目標 (Goal2)

2025年 食品廃棄によるロスの50%削減 (2017年対比)
2030年 製造ロス、終売ロスを0にする製造管理システムが確立された会社

社内目標 (Goal12)

2025年 環境配慮型素材使用割合60%の達成
2030年 製造に使用する資材全てが廃棄される事無く、循環する仕組みの会社

Goal 3 全ての人に健康と福祉を



社内目標 (Goal3)

2025年 健康企業宣言「金の認定」の取得
2030年 全ての従業員が健康に、安心と、やりがいを持って働ける会社

Goal 4 質の高い教育をみんなに



社内目標 (Goal4)

2025年 全従業員を対象としたeラーニングシステムの確立
2030年 教育を受けた人が、全て教員になれる仕組みが確立された会社

Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう



Goal 8 働きがいも 経済成長も



社内目標 (Goal5)

2025年 プラチナえるぼし認定の取得
2030年 出産等、女性の長期休暇から復帰しやすい環境制度が確立された会社

社内目標 (Goal8)

2025年 年齢・性別・国籍・障害の有無に関わらず、平均勤続年数の10%向上
2030年 年齢・性別・国籍・障害の有無に関わらず、その個人の能力に応じたキャリアアップができる会社

Goal 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



社内目標 (Goal7)

2025年 特定温室効果ガスに関して、年8%以上のCO2排出量削減
2030年 特定温室効果ガスに関して、年17%以上のCO2排出量削減

Goal 10 人や国の不平等をなくそう



社内目標 (Goal10)

2025年 多文化共生の取り組みを通して、技能実習生・特定技能従業員の法令違反0件
2030年 国籍関係無く十分な職業教育が受けられ、活躍できる会社



「SDGs 目標」は東京都の計画を参考にしています。売上を上げるといことは工場稼働率が高くなるわけですが、地球のためにはCO2排出量を減らさなければいけません。スケジュール管理をして無駄をなくす、効率の良い機械を導入するなどの取り組みを行っています。

当社は外国の方が多いので「多文化共生」の考えは必要不可欠です。日本語教室の整備のほ



か、寮を巡回して生活指導をし、近隣の方とラブルがあればフォローをしています。

こうした数々の取り組みもあり、当社は立川市ワークライフバランス推進事業所に認定され、また東京都の心のバリアフリーサポート企業にも登録されました。心のバリアフリーとは、高齢者、外国の方、障害のある方、小さい子を持つ女性など、不便を感じている方たちに寄り添い、ハード面、ソフト面で改善していく活動です。見えないバリアを従業員みんなで常に意識して気づいたら改善する。相手を思いやる心を忘れないことが、ヤマヲの行動理念です。

部署間で連携を図り 誰もが働きやすい環境を目指す

サステナビリティ 推進部

菅原

Kyoko Sugawana

恭子

部長

健康経営



働く従業員の健康を第一に考え、長く健康に従事していただくための取り組みを行ったことで経済産業省の「健康経営優良法人2024」に認定されました。さらに従業員とその家族の健康推進のため、さらなるステップアップを目指します。身体やメンタル不調の早期発見や、健康増進のための取り組みの一例が、喫煙室の制限と喫煙による危害の啓蒙をしたことで喫煙率を大幅に削減できたことです。今後は男性による育休休暇取得や介護休暇・有休休暇の取得率向上が課題です。



女性活躍



ヤマヲの女性従業員の割合は約55%です。社内では管理職、正社員、契約社員、パートナー従業員など、さまざまな場面でたくさんの女性が活躍しています。産休育休の制度も確立されており、複数の方が産休育休制度を活用し、安心して産前産後を過ごされています。厚生労働省からは女性が活躍する会社として「えるぼし認定」されています。ステップ1と2をクリアして星の数は現在3つ。さらに上の「プラチナえるぼし」を目指しています。



YAMAWO Future Investment School

多文化共生



私は7年前に実習生として日本へ来ました。食品関係の仕事は初めてでしたが27名ほどいた中の8名に選ばれ、合格することができました。実習期間中は製麺室で麺を作る仕事に就き、今は工場や会社の機械を修理する工務課で働いています。工務の仕事も初めてでしたが新しい仕事を勉強したいので怪我をしないよう集中して頑張っています。日本語はテキストと日常会話では全然違うので難しく、最初は実習が終わったらベトナムへ帰ろうと思っていたのですが、良い同僚と出会い、上司も気にかけてくれるので困ったら相談をしています。お給料は毎月10万円くらいをベトナムにいる母へ送っています。ずっと働きたいですが今は特定技能1号なので長くても5年間しか滞在できません。もっと日本語を勉強して特定技能2号合格を目指し、ヤマワでずっと働き続け、またベトナムにいる弟たちにも頑張ってもらって日本で仕事をしてほしいと思っています。

製造部 工務課
チャンホン ニャン



私は大学を卒業したら食品関係の仕事をしたと考えていたので、技能実習制度で日本へ来ました。ヤマワに入社してからは3年間スープ室で働き、実習期間を終えたらベトナムに帰ろうと思っていたのですが、会社から契約社員採用のお話をいただき、品質保証部に配属されました。ヤマワは日本人でも外国人でも働きを見てくれている上司がいるので、とてもやりがいがあります。今は細菌検査や工場の衛生管理を担当しています。たまに分からない日本語がありがた確な指示ができない時は反省しますが、1年前より成長できていると感じているので契約社員として働くことができ本当に良かったです。これからも日本語を勉強して日本の良いところをベトナムに紹介したり、困っているベトナム人がいたら助けてあげられる人になりたいです。日本は食べ物も美味しく、住めば住むほど好きになれる国です。日本人のマナーも自分の考えと近いところがあることが分かったのも大きな学びです。

営業本部 品質保証課
ズオンティホン ガット



外国人従業員の声

私の親戚と兄弟がヤマワで働いていたのですが、環境が良いと聞いていたので2022年に入社しました。主に外国人従業員の通訳と管理、総務部の資材発注、来客受付・対応などを担当しています。外国人従業員の管理はとても大変です。日本語が分からない、分かって上手く喋ることができない人もあるので勘違いからトラブルが起きることもあります。そのため、日本人にとっては当たり前のことでも会社のルールや注意しなければいけないことを日本語教室で学べるようにし、問題が起きたらみんなに報告をして同じことが起きないようにする大切さを伝えています。私も完璧な日本語ではないので尊敬語などは気を付けて話すように心掛けています。これからは会社全体を把握し、いろいろなプロジェクトに参加して新しい商品を作り、課長になることを目標に頑張ります。

管理本部 総務部 人事課
ブイティ ティエット



とても熱心な人が多くみんな真面目にレッスンを受けています。ただ、日本へ来て半年ほど経つと生活の違いや環境の変化に馴染めずナーバスになる人もいますので、私は彼らに日本語や文化を教えるだけではなく相談しやすい存在であることと心のケアに気を配るよう心掛けています。異なる国からやってきた日本語レベルが違う約200名をひとり教えるのは大変ですが、できない人にはしっかり付き添い、上達したいと思えるようなレッスンをを行うことで日本語能力試験の上を目指してもらっています。今後は日本語検定試験N3を全員取得することが目標です。ヤマワに入社するために日本へ来たけれど違う自分にチャレンジしたいと思った時に職種も広がるからです。日本には若い外国人労働者の力が必要です。仕事だけではなく日本で生活する上で楽しいことを見つけてほしいと常に願っています。



SDGsの理念に基づいた「パートナーシップ」は、ヤマワの運営に欠かせません。現在ヤマワでは8カ国約200名の従業員が日々協力しながら安心安全な食品製造に取り組んでいます。言語も文化も異なる外国人従業員と日本語でのコミュニケーションを円滑に行うため、また日本の文化を学んでもらうため、自社講師による日本語学校を週3回開き(火曜・水曜・木曜 7:50~9:30)、日本語学習の機会を整備しています。

ヤマワはどんな国の人でも翻訳・通訳をしてくれて、誰でも仕事ができるようルールを教えてくれるので働きやすく、一生懸命真面目に働けば立場と責任がある仕事に就けます。私も主任になりました。また、自分も会社を出たらお客様なので、安心安全な食品製造を厳しく守っているところもとても良いと思いました。私の仕事は製品冷蔵庫の管理で、在庫数や製造管理、アルバイトスタッフの管理などです。ヤマワにはいろいろな国の方がいて異なる考え方や性格なので、まとめてひとつのチームにしていけるのはとても大変ですが、新人に教育を行い成長していく姿を見られることはとてもやりがいがあります。私には妻と3歳になる子どもがいますが、両親はネパールにいます。時々日本へ来ることであるので、日本の真面目なルールを教えたりします。これからは両親だけではなく、ネパールの方々に安全な日本のことやルールを伝えていきたいです。

製造部 第一製造課 製品冷蔵庫 主任
シュレスタ ラジェンドラ



YAMAWO BOTTOM UP PI

ボトムアッププロジェクト

部署の垣根を越えて様々なプロジェクトチームを作り、理想の組織像の実現に向けて課題解決・体制強化に取り組んでいます。部署間連携することは各部署の仕事や成果に対して理解を深め、自身が組織全体にどのように貢献しているかを認識することができます。お互いを知りコミュニケーションが生まれるプロジェクトでの活動は、結果的に生産性の向上や風通しの良い職場環境を作り出しています。各プロジェクトは月1回の全体ミーティングで全体の方向性と活動実績をまとめ、経営陣に報告しています。

安全プロジェクト

労災事故発生ゼロ件と災害時の適切な対応を目標に、働く人の安全安心及び企業としての信頼の確保を目指して活動しています。メンバーが工場の見回りを行い、危険箇所・危険行動の発見と対策、過去の労災事故の分析と周知を行います。避難経路の確認と避難訓練、AEDを使った救急蘇生講習会もこのプロジェクトが担当し、有意義かつ計画的に実施しています。



二代目5M

5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・習慣づけ）を中心に衛生管理のレベルアップと微生物検査適率100%を目指すプロジェクトです。人によって機械清掃に差がないよう各時間帯でポイントを指導し、時には専門業者の意見も取り入れます。添加物削減の新製品テスト販売も成功に導き、お取引先様から大きく評価いただきました。



品質向上プロジェクト



お客様に美味しくきれいな商品を安定してお届けできるよう、製造から出荷までの作業工程やラインスピード管理を徹底することで品質不良ゼロを目指すプロジェクトです。従業員の意識が向上し、社内発見で不適合を未然に防止できる件数が大幅に増加しました。製品の見えるの美しさを追求することで、微生物検査結果も良化しています。

製造スケジュール、人員数、機械の見直しにより、生産効率向上とコスト削減を目指しています。メンバーは工場を巡回して問題点を抽出し、部署責任者と対策を考えます。紙の無駄を減らすことから始まった「デジタル推進」の活動は今や主軸となりました。ここからの提案により大画面モニターやタブレットなどハード面の導入が進み、様々な動画配信を行うことで人材育成に大変な効果を上げています。

女性プロ

女性が働きやすい職場環境作りを行っています。これまでにトイレの除菌シートの設置、掲示物（WSP通信）の発行、女性の健康やハラスメントに関する講習会、アンケート調査、女性意見交換会などを実施してきました。出産・育児などで離職することなく笑顔で働けるよう設備・メンタル・制度など様々な角度から取り組んだ結果、厚生労働省の「えるぼし・三ツ星認定」をいただくことができました。



人材育成

教育を「未来への投資」「共育」と位置づけ、強い教育の仕組みを確立するために立ち上げられました。最優先課題であった新人の受け入れ教育について10日間のカリキュラムとデジタル機器を使用した外国語対応のツール、確認テストからなる履修方式を作り上げました。この仕組みを拡大し、すべての従業員に必要な知識と技能の取得を効率的かつ継続的に行っていきます。

コーストバスターズ



アルペンスキーヤー
若月隼太選手

Shunta Wakatsuki

1999年（平成11）新潟県苗場生まれ。ジュニア時代から大きな注目を集めてきた選手です。2016年（平成28）の世界カップ苗場にて前走をするなど着実に世界の舞台へ進出しています。未来の日本アルペンスキー界を担う1人として大きな期待を集めています。日本人初のワールドカップ制覇とオリンピックメダル獲得を目指す若き才能を応援していきます！



東京ヴェルディ
TOKYO VERDY



©TOKYO VERDY

2015年（平成27）4月よりコーポレートパートナーとして応援させていただいています。2009シーズンから所属していたJ2で昨シーズンに3位フィニッシュ。昇格プレーオフを勝ち抜き、2024年1月に16年ぶりにJ1へと振り返りました。これからも選手・フロントが一丸となって戦う姿を応援していきます！



ヤマヲは
頑張るアスリートを
応援しています

株式会社ヤマヲは積極的にアスリートを応援しています。大会・リーグ・競技団体へのスポンサー・サプライヤーを通じて子どもたちへ心豊かな食文化を伝えると共に、応援するサッカーやフットサルチームの試合を日本人従業員も外国人従業員も一同となって応援することで、文化の違いを超えてコミュニケーションを深めています。

地元立川の企業として立川アスレティックFCのトップパートナーを務めております。「スポーツで、人生に大きな夢と、毎日に小さな彩りを」をクラブ理念に掲げ、10年後アジアチャンピオンになることを目標に活動しているチームです。これからもFリーグ1位、全日本フットサル選手権優勝、アジアチャンピオンを目指す選手・スタッフのみなさんを応援していきます！



Tachikawa athletic FC
立川アスレティックFC

元アルペンスキーヤー
湯浅直樹氏

Naoki Yuasa



現役生活では冬季オリンピックに3度出場。そのアグレッシブな滑りは絶大な人気を誇り、38歳となる2022年（令和4）までアルペンスキー界のトップを走り続けました。現在は長野県小諸市にある高峰マウンテンパーク（旧アサマ2000）を拠点としてスキーアカデミー「YUASA SNOW ACADEMY」を設立。世界のトップで活躍した経験を後進育成に生かしています。今後も湯浅直樹氏の活動を応援していきます！

前列左から

- 1 製造部 副工場長
- 2 品質保証本部 品質保証部 部長
- 3 品質保証本部 サステナビリティ推進部部長
- 4 管理本部 本部長
- 5 代表取締役社長
- 6 専務取締役
- 7 工場長
- 8 営業本部 営業開発部 部長
- 9 製造部 副工場長
- 10 管理本部 製造管理部 部長

- 松岡 俊光
- 椎根 孝弘
- 菅原 恭子
- 高野 邦彦
- 岡部 直士
- 岡部 栄一
- 稲野辺 学
- 遠藤 隆行
- 清水 賢二
- 田中 健二

4列目左から

- 28 管理本部 製造管理部 課長
- 29 製造部 第二製造課 係長
- 30 製造部 第一製造課 主任
- 31 製造部 第一製造課 課長
- 32 製造部 第二製造課 主任
- 33 製造部 第一製造課 課長
- 34 製造部 第二製造課 係長
- 35 管理本部 総務部 総務・経理課 課長
- 36 製造部 第一製造課 次長

- 池田 勲
- 加藤 祥仁
- シュレスタ ラジェンド
- 海野 幸彦
- ダカル スレシュ
- 箕輪 功
- マハルザン サロズ
- 越沼 和浩
- 石川 誠

2列目左から

- 11 製造部 第一製造課 次長
- 12 品質保証本部 品質保証部
- ト
- 13 営業本部 営業開発部 営業開発課
- 14 管理本部 製造管理部 製造管理課 主任
- 15 管理本部 総務部 係長
- 16 製造部 第二製造課 係長
- 17 営業本部 営業開発部 NFF 課長出向
- 18 品質保証本部 品質保証部
- 19 製造部 第一製造課 次長

- 加藤 正幸
- ズオンティホン ガツト
- 阿部 智恵美
- 岡部 美保
- 森田 惇子
- 内藤 惇子
- 青木 里美
- 伊藤 満理子
- 湯本 潤

5列目左から

- 37 製造部 第一製造課 係長
- 38 製造部 第一製造課
- 39 製造部 第一製造課
- 40 営業本部 営業開発部 購買課 係長
- 41 製造部 第一製造課 係長
- 42 製造部 工務課
- 43 管理本部 総務部 人事課 主任
- 44 製造部 第一製造課 課長

- グエンヴァン タイン
- 極渡 竜馬
- グエンヴァン クウ
- 三浦 一彦
- 高橋 亮
- チャンホン ニヤン
- 大山 恭兵
- 乙顔 久人

3列目左から

- 20 営業本部 営業開発部 営業開発課
- 21 管理本部 総務部 人事課
- 22 営業本部 営業開発部 営業開発課 課長
- 23 営業本部 営業開発部 購買課 次長
- 24 営業本部 営業開発部 営業開発課
- 25 管理本部 総務部 総務・経理課
- 26 製造部 第二製造課
- 27 管理本部 総務部 人事課 次長

- 伊藤 早紀
- ブイティ ティエット
- 原 邦弘
- 奈良 健司
- 田中 瑛莉
- 高島 好美
- カバリネバリ リタ
- 稲見 圭悟

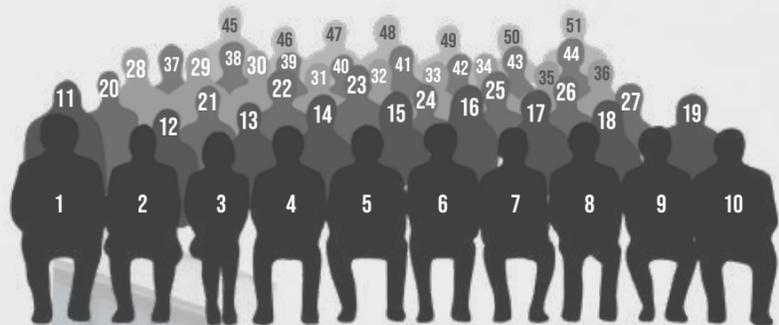
最後列左から

- 45 品質保証本部 品質保証部 主任
- 46 製造部 第一製造課
- 47 製造部 第一製造課
- 48 製造部 第一製造課
- 49 管理本部 製造管理部 主任
- 50 製造部 第一製造課
- 51 製造部 第二製造課

- 奥脇 卓也
- ティエンクアン ニャー
- カンデル チャピラル
- 黄 竜
- 中村 剛
- 浜中 登
- ルイテル ウドップ



2023年11月24日(金) 現在





株式会社ヤマヤ70周年記念誌
2024年4月30日発行

企画	株式会社ヤマヤ 〒190-0003 東京都立川市栄町4-3-3 042-522-2038 (代)
制作	株式会社けやき出版
編集	田村 有佳梨
撮影	小林 拓也
デザイン	ササキサキコ
印刷	株式会社立川紙業